

冷え込みが厳しくなってまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

小雪の舞い落ちる夕暮れに
凍てそうな石畳が青白く並んでいます。
家々の明りが一つまた一つと灯ると、
温もりが広がるようにサザンカの花が浮きあがっていきます。
もうすぐいい天気。
今夜は、冬の1等星が大輪の花の様に咲き乱れそうです。

それでは今月も行ってみましょう。

2025年 1月

【主な現象】

1月 4日	しぶんぎ座流星群が極大（0時） 地球が近日点を通過（22時28分）
1月 7日	上弦（半月）（8時56分）
1月 8日	月が最近（9時01分）
1月 10日	金星が東方最大離角（14時02分）
1月 12日	火星が最接近（22時37分）
1月 14日	満月（7時27分）
1月 17日	火星が衝（1時53分）
1月 21日	月が最遠（13時45分）
1月 22日	下弦（半月）（5時31分）
1月 29日	新月（21時36分）

【解説】

★しぶんぎ座流星群は、1月01日ごろから1月07日ごろまで活動します。極大は1月04日00時で、極大時の出現数は1時間あたり50個程度で、速度はやや速く、極大時間の前後数時間の間に集中して出現するのが特徴です。

極大時の月齢は3.7で月の影響が無いのと極大が夜中になるので、条件は最良です。

4大流星群の1つで毎年安定して多数の出現がありますが、ピークが急峻で極大時が昼間になる場合や、極大時の輻射点高度が低いと、夜に見える出現数が減少してしまいます。極大は、ずれることもあるので、前後1日は要注意です。

★金星の高度が高くなっていて、暗くなつて星が出そろつても、しばらく沈まないので、星座の中にいる様子がよく分かります。みずがめ座にいるので、探して見ましょう。

★火星が見ごろとなります。小接近ではありますが、大接近の時には見えにくい、北極が見やすいのでよく見ておきましょう。

【観望案内】

★接近

- ◎ 1月03日 金星と細い月（月齢 3.4）が
夕方南西の空（20時40分以前）で
接近して見えます。
見ごろは17時00分ごろでしょう。
- 1月04日 土星と細い月（月齢 4.4）が
夕方南西の空（21時10分以前）で
接近して見えます。
見ごろは17時00分ごろでしょう。
- 1月10日 プレアデス星団と月（月齢 10.4）が
宵に南東の高い空
(1月11日 3時00分以前) で
接近して見えます。
見ごろは18時00分ごろでしょう。
- 1月10日 木星と月（月齢 10.6）が
宵に南の高い空（ 1月11日 3時00分以前）で
接近して見えます。
見ごろは21時00分ごろでしょう。
- 1月13日 ポルックスと火星と月（月齢 13.6）が
宵に東の空（17時10分以降）で
接近して見えます。
見ごろは21時00分ごろでしょう。
- 1月14日 火星と月（月齢 14.6）が
宵に東の空（17時10分以降）で
接近して見えます。
見ごろは21時00分ごろでしょう。
- 1月16日 レグルスと月（月齢 16.6）が
夜半前（ 0時00分）で
かなり接近して見えます。
見ごろは 0時00分ごろでしょう。
- 1月21日 スピカと月（月齢 20.8）が
未明に南東の空（ 1月20日 23時30分以降）で
接近して見えます。
見ごろは 3時00分ごろでしょう。
- 1月25日 アンタレスと細い月（月齢 24.9）が
明け方南東の空（ 3時20分以降）で
かなり接近して見えます。
見ごろは 5時00分ごろでしょう。
- ※ ◎：非常に接近するか、見た目が特にきれいと思います。
○：見ておもしろいと思います。
△：高度が低かったり、薄明の中であったりで見にくいと思います。
但し、朝焼けや夕焼けと山の稜線も入れて写真にする等
意外とおもしろい可能性はあります。
◇：双眼鏡や望遠鏡で見られます。

★日没

東京での日没は

1月 1日 16時38分
1月 8日 16時44分
1月 15日 16時50分
1月 22日 16時57分

もう少し日の暮れるのが遅くなりだしています。

東京での初日の出は 6時51分 です。

★今宵の空

日が暮れると (18時~19時ごろ)

まだ秋の星座がよく見えます。

天頂付近 おひつじ座、さんかく座、アンドロメダ座、ペルセウス座
南の空

高 くじら座
中 ろ座
低 ほうおう座、とけい座の一部

南西の空

高 うお座
中 金星、土星、ちょうこくしつ座
低 みなみのうお座の一部

西の空

高 ペガスス座
中 みずがめ座
低 こうま座、いるか座、やぎ座の一部

北西の空

高 とかげ座
中 はくちょう座、こぎつね座
低 や座、こと座

北の空

高 カシオペヤ座、きりん座
中 ケフェウス座、こぐま座
低 りゅう座、おおぐま座の一部

北東の空

中 やまねこ座

東の空

高 木星、ぎょしゃ座、おうし座
中 ふたご座、いっかくじゅう座、こいぬ座
低 かに座

南東の空

中 オリオン座、うさぎ座、エリダヌス座
低 おおいぬ座、はと座、ちょうこくぐ座
が出ています。

★星のお話

アルゴ座 [アルゴ]

Argo Navis

設定者： プトレマイオス

面積： 1888 平方度

《The Ship Argo》

アルゴ座は現在使われていませんが、 プトレマイオスの設定した 48 星座の一つです。アルゴ号という大きな船を表した星座です。

古代メソポタミアではこの辺りにそれらしき星座は見当たりません。

アラトスの詩には「大犬の尾に接する様にアルゴー船はその艤から曳かれてくる。もちろん、これは本来の航行の姿では無い。

後ろ向きに進んでいる。ちょうど、停泊地に入って行くために、すでに船乗りたちが船尾の向きをそちらへ合わせ終えた

現実（地上）の船の様。それですばやく全員で船を逆漕させると、船は艤の方から陸地へしっかと結わえられる。

まさしくこのように、イアソンのアルゴー船は艤から曳かれてくるのだ。

舳先から帆柱そのものまでは、靄のかかった様で星もないまま進むが、

ほかは全て輝いている。その舵もぶらりと下がったまま、前を行く犬の後足のすぐ下のあたりに据えつけられている。☆01) と歌われています。

春の南の低い空を大きく占めていますが、 1888 平方度あり、

あまりにも大きいからというので 1763 年にフランスのラカイユが、

アルゴ座を、とも座（船尾）、ほ座（帆）、らしんばん座（羅針盤）、

りゅうこつ座（竜骨）の 4 つの星座に分けてしまいました。

しかし、以前からアルゴ座は、とも、ほ、ほばしら、りゅうこつに区分して呼ばれていて、らしんばん座の辺りは、ほばしら（帆柱）で

あったので、神話の船に羅針盤は合わないとして、フランスの天文学者ラランドが 1776 年に、ほばしら^{☆02)} (帆柱、檣) Malus^{☆03)} としました。

その後（1872 年？）、アルゼンチンで南天の観測をしていた

アメリカの天文学者グールドが再び、らしんばん座と提唱しました。

そしてそのまま、1928 年国際天文連合の総会で「らしんばん」が

採用されて（1930 に公表）現在に至ります。☆02)

神話ではアルゴ号遠征隊の大冒険物語として登場します。

星座の話ではあまり詳しくふれられないで、長くなりますが、多くの星座や星の名前に関連する人物や動物、物などが登場するので見ておきましょう。

神話では、イアーソーンがコルキスの国の金毛の羊の皮を奪いに行くために作らせた船アルゴ号ということになっています。

イアーソーンは、テッサリアの王アイソーンの末子でした。アイソーンの義弟のペリアースは野心に満ちていて、兄の王位をはぎ取り国外に追放しました。ペリアースは兄の子らの恨みをかうのを恐れて殺せましたが、イアーソーンだけは、母アルキメデに救われ難を逃れて、ペーリオン山に住む百芸の師ケンタウルスのケイローン（いて座）のもとにあづけられて教育され、やがて立派な青年になりました。

そして、アイソーンはイアーソーンにペリアースの王位を返すがと要求させました。☆04)

ペリアースは、王権に関して片方のサンダルの男に注意すべしという神託を受けていて、海辺でポセイドン（海王星）に生け贋を捧げる祭典に呼ばれていたイアーソーンが祭典の向かう途中アナウロス川を渡るときに片方のサンダルを無くしていたのを見て、イアーソーンに注意する必要があることに気付きました。☆05)

腹黒いペリアースは、言葉巧みにイアーソーンを説いて、^{☆06)}

「もし、お前が権力を持っていて、市民の一人によって殺されるという神託があったらどうする」と尋ねると、イアーソーンは「私だったら、金の毛皮持ってくるがと命令します」と答えました。

これを聞いたペリアースは、直ちにその毛皮を取ってくるがとイアーソーンに命じて、^{☆05)}

「黒海の東岸コルキスの宝となっている金毛の羊の皮を奪ってたら王位を返そう」と言いました。ペリアースは、イアーソーンがこの冒険に失敗して金の毛皮を守っている竜の餌食となって、やっかい払いできることをたくさんでいました。イアーソーンは、もともとテッサリア王アタマースの王子フリクソスを乗せて、コルキス飛んで行った金毛の羊（おひつじ座）なので、親族である自分が取り戻しに行くのは当然のことと冒険心をかき立てました。^{☆06)}

そして、イアーソーンは、ギリシアじゅうから、冒険好きな勇士を募って^{☆06)}

50人とも100人^{☆04)}とも言う※1)、若者がそれに応じました。

コルキスに遠征するために、船匠アルゴスに、ドードナ山（トドネの森）から、一番立派な櫻の木を切り出して、50の艤がある大きな船を造らせ、アルゴスの名にちなんで、アルゴ号と名付けました。^{☆06)}

一行は、テッサリアのパガサイ港から順風を受けて出航し^{☆04)}、ケイローンが授けた星図と海図をもとに航海を続けます^{☆06)}が数々の苦難が待ち受けています。

まずは、レームノス島に寄港。こここの女たちはアプロディーテーを崇敬しなかった祟りによって悪臭を発する様にされ、他の地の女を求めようとする夫や父などの男たちを全て殺害してしまったという、女ばかりの島でした。

ドリオニアーに立ち寄ったとき、王のキュージコスは彼らを歓迎しましたが、夜に出航し逆風に遭って再びドリオニアーに戻ってしまい、ドリオニア一人たちは、戦争していたペラスゴイ人の軍勢と思い込み戦を交えて、アルゴ遠征隊は多くの人を殺し、その中にはキュージコスも混じっていました。昼になってこれを知り嘆いて髪を切り、キュージコスを弔いました。

ミューシアーに立ち寄ったとき、ヘーラクレース（ヘルクレス座）の愛していたヒュラースが水汲みに行ったところ、その美貌のためにニムフ（妖精）たちにさらわれ、ヘーラクレースが探していました。その叫び声を聞いてポリュペーモスも駆け付け、2人がヒュラースを探している間にアルゴ号が出航してしまいました。

ヘブリュクス人の地に寄ったとき、王のアミュコスは、この地に立ち寄る者に拳闘を行わせて殺していました。アルゴの勇士にも挑んできましたが、剣術と拳闘の名手ポリュデウケース（ポルックス）が受けた立ち逆に倒しました。

トラーキアのサルミュデーソスに寄ったとき、そこには盲目の予言者ピーネウスが住んでいました。ピーネウスは、人間に未来を予言したため神々によって、または、自分の子供たちを盲目にしたためボレアースとアルゴ遠征隊によって、または、プリクソスの子供たちにギリシアからコルキスに行く航海の方法を教えたためポセイドーンによって、盲目にされたと言われています。また、神々はピーネウスにハルピュイアを遣わし、彼女らは羽を持っていて天から舞い降りて、食べ物をさらって行くので、ピーネウスは食べることができませんでした。アルゴ遠征隊がピーネウスに航海について教えてほしいと言ったとき、ハルピュイアから

救ってくれれば教えてやると言いました。そこで、アルゴ遠征隊が食事を用意して待っていると、ハルピュイアが舞い降りてきました。

ボレアースの子ゼーテースとカライスは翼を持っているので、刀をもって空に上がりハルピュイアたちを退治しました。

ピーネウスは、アルゴ遠征隊に航海の路を示し^{☆05)}、ヘレースポントス※とプロポンティスの二つの海峡を通過するのに、暗礁と急流をどの様にして避けたらよいかを教え^{☆04)}、海中にあるシュムプレーガデスの岩について忠告をあたえました。

シュムプレーガデスの岩は、非常に大きく風の力で動いて双方が激突して海路を塞ぎます。岩の上には深い霧がかかり、轟々と鳴り響き、翼のあるものと言えども、岩と岩の間を通り抜けすることはできません。そこで、1羽の鳩を放って鳩が無事に通過するのを見たときはそこを通航して、もし、鳩が通過できなかつたら無理に通つてはならないと、教えました。これを聞いてアルゴ号は海に出て岩の近くに来たとき、船首から1羽の鳩を放ち、鳩は何とか通り抜けましたが尾の端が岩に挟まれ切り取られました。そこで、再び岩が開くのを待つて、全力で漕いで何とか通り抜けることができましたが、飾り艤の端が切り取られてしまいました。

アルゴ遠征隊は、マリアンデュノーイ人の国に着き、この地でティーピュスが亡くなり、代わりにアンカイオスが、舵を取ることとなりました。

コルキスのパーシス河に至り、イアーソーンはコルキスの王アイエーテースの所に行ってペリアースの命令を話して金の皮をくれる様頼みましたが^{☆05)}、王は国を繁栄させている金の毛皮（アイエーテースが、フリクソスを乗せてコルキスに飛んできた金毛の羊（おひつじ座の話）を大神ゼウスの生け贅としたので、ゼウスは満足し毛皮の所有者となる者に幸福を約束した）を渡すまいと思い、難題を言います。青銅の角と蹄を持つ^{☆04)}牡牛^{☆05)}2頭をてなずけて、軛^{☆04)}（くびき：牛馬の首に付けて車を引かせるための横木^{☆07)}）を付けて、ダイヤモンドの付いた犁（すき：牛馬に引かせて畠を耕す農具^{☆07)}）を結びつけて、未開拓の土地を耕して、種として竜^{☆05)}（蛇）の歯を播く。すると、作物として武器を持った巨人が現れるから、それらを全て退治する。これを一人で、1日でやれば、金の毛皮に近づくことができると言うのです。^{☆04)}

その牡牛は、ヘーパイストスの贈り物であり、非常に大きく青銅の足を持ち、口から火を吐きます。^{☆05)}

イアーソーンが、この難題をどうすれば実現できるか、考えにくれながら海岸を歩いていると、王の娘で魔法使いのメーデイアが歩み寄ってきました。メーデイアは、イアーソーンに恋をして、勇気をほめて、自分を妻として船に乗せてギリシアに連れて帰ると約束してくれれば、難題を実現する方法を教えようと言いました。^{☆04)}

イアーソーンは、メーデイアを妻とすることを心に決めました。

コルキスの国には秘密の場所に生えているめずらしい魔法の毒草があり、メーデイアはこの草の効力に詳しく、魔法の草をイアーソーンに渡して、使い方を教えて^{☆04)}、この薬を塗つていれば日に焼かれることも刀で切られることも無いので、牡牛をつなぐとき全身に塗る様にと言いました。また、竜の歯^{☆05)}（蛇^{☆04)}を播くと大地から武装した男が現れて、彼に向ってくるので、対処のしかたも教えました。^{☆04)}

次の日の夜が明けかかったとき、青銅の蹄の牡牛が、うなりを上げて、鼻から火を吹いて現れましたが、イアーソーンは体に、草の薬を塗つて

いたので、焼かれること無く、牡牛を押さえつけ軛を付けて、
ダイヤモンドの付いた犁を結びつけて、荒れ地を耕して行きました。
そして、竜^{☆05)}（蛇）の歯を播くと、武装した巨人が土の中から現れました。
イアーソーンが巨人たちの集まつた中に、魔法の岩を投げ込むと、巨人は
互いに戦いだして自滅しました。このとき、まだ1日たって
いませんでした。^{☆04)}

それでも、アイアテスは金毛の羊の毛皮を渡さず、アルゴ号を焼き払い
乗組員を殺そうと思っていることを、メーデイアはさとっていたので、
先回りして、イアーソーンを金毛の羊の毛皮の所へ連れて行きました。^{☆05)}
そこには、恐ろしい竜がいて、鋼鉄の様爪で地面をひっかいて、
鋭い牙を鳴らしながらイアーソーンに飛びかかろうとしたとき、竜の背中に
催眠の毒草をまくと、やがて、竜は動かなくなり、金毛の羊の毛皮を
取ることができました。^{☆04)}

イアーソーンとメーデイアと、付いて来たメーデイアの弟アプシュルトスと共にアルゴ号に乗り込み、夜のうちに出航しました。

アイエーテースは、メーデイアの行いを知り、アルゴ号を追跡しました。

メーデイアは、アイエーテースが近づいてくるのを見ると、

アプシュルトスをハつ裂きにして、深みに投げ捨てました。

アイエーテースは、わが子アプシュルトスの身体を集めているうちに
追跡するのが遅れてしまい、引き返してアプシュルトスの四肢を
葬りました。

エーリダノス河（エリダヌス座）を通過しつつあるときに、ゼウスは
アプシュルトスの虐殺に怒って、猛烈な嵐を送り航路を失わせました。
船がアウソニアに赴いてキルケーによって清めを受けないと、ゼウスの
怒りが治まることが無いということで、リグリアおよび、ケルト人の国を
通り、サルディニア海を通り、テュレーニアーに沿って航海し、
アイアイアーに行きキルケーの清めを受けました。

セイレーンのそばを通ったとき、（セイレーンは、アケローオスと
ムーサの一人メルボネーの娘たちの、ペイシノエー、アグラオペー、
テルクシペイアで太腿から下は島の姿をしていて、一人は豎琴を弾き、
一人は歌い、一人は笛を吹き、そこをゆく船人を留める様説く）
豎琴の名手オルペウス（こと座）が対抗して歌を歌って、乗組員を
船に引き留めたが、ブーテース一人だけは、彼女の方に泳ぎ去って
しまいました。

次に、カリュブディスとスキュラと、火と煙が上がっているのが見える
浮き岩が船を迎きました。（スキュラは、漂い岩にいる、クラタイイスと
トリエーノスまたはポルコスの娘で、顔と胸は女で脇腹から犬の頭が
6つ、足が12生えている。カリュブディスは断崖にいて、彼女は1日に
3回水を吸い込み再び放送出する）しかし、ヘーラのお召しによって
これらの間を通過することができました。

パイアーキア一人の島ケルキューラに寄ったとき、コルキス人の一部が
アルゴ号を見出でて、島の王アルキノオスに、メーデイアを引き渡す
ように要求しました。アルキノオスは、メーデイアがイアーソーンと夫婦の
契りを結んでいなければ父に送り返そうと言いました。しかし、
アルキノオスの妻アレーーは直前にメーデイアを契らせたので、
アルゴ号はメーデイアと共に出航しました。

また航海中激しい嵐に遭遇したとき、アポローンがメランティオス山の
背に立って海中に矢を射て稻妻を放つので、近くの島に錨をおろし、
アポローンの祭壇を建てて、供物を捧げ饗宴して出航しました。
クレータでは、ターロスによって入港を妨げられていました。

ターロスはヘーパイストスに作られたとも言う、青銅人または青銅の牡牛ですが、メーデイアによって、薬で狂わされた、または、釘を抜かれて神血が流れ出てしまい死んだと言います。
こうして全航海を4ヶ月で終えイオールコスに着きました。☆05)

テッサリアに戻ってきたアルゴ船隊員の親類縁者や友人達が集まって、祝宴を催しましたが、老いて体が弱くなった父アイソーンが、宴席にいないのに嘆いたイアーソーンは、メーデイアに魔法を使って若返らせて欲しいと頼みました。メーデイアはアイソーンの咽を切り開き、血をしぶりだして、その代わりに若さを甦らせる薬液をそそぎ込みました。若さと力が甦ったアイソーンはメーデイアに感謝して、ペリアースに追放されたこれまでの経緯話すと、メーデイアは約束通り王位を返そうとしないペリアースに復讐を計画しました。
老いたペリアースに二人の娘がいましたが、この娘に協力してくれるならペリアースを、アイソーンの様に若返らせてあげてもよいのだと持ちかけて☆04)、八つ裂きにした牡羊を煮て、仔羊に変えて見せました。娘達は言われたとおりに、父ペリアースを細々に切り裂いて大きな釜（コップ座）でゆでましたが、ペリアースはそのまま葬られました。☆05)
イアーソーンは王位につき☆04、※1) 海の神ポセイドーンに捧げられたアルゴ号は、天に上げられアルゴ座となったと言う話です。☆06)

※1) アルゴ船遠征隊のメンバーは、アポロドーロスによると☆05)

1 アイソーンの子	イアーソーン
2 ハグニアースの子	ティーピュス
3 オイアグロスの子	オルペウス（オルフェウス）
4 ボレアースの子	ゼーテース
5 ボレアースの子	カライス
6 ゼウスの子	カストール（カストル）
7 ゼウスの子	ポリュデウケース（ポルックス）
8 アイアコスの子	テラモーン
9 アイアコスの子	ペーレウス
10 ゼウスの子	ヘーラクレース（ヘルクレス）
11 アイゲウスの子	テーセウス（テセウス）
12 アパレウスの子	イーダース
13 アパレウスの子	リュンケウス
14 オイクレースの子	アムピアラーオス
15 コローノスの子	カイネウス
16 ヘーパイストスあるいはアイトーロスの子	パライモーン
17 アレオスの子	ケーペウス (ケフェウス座のケーペウス（アンドロメダの父）とは別人)
18 アルケイシオスの子	ラーエルテース
19 ヘルメースの子	アウトリュコス
20 スコイネウスの娘	アタランテー
21 アクトールの子	メノイティオス
22 ヒッパソスの子	アクトール
23 ペレースの子	アドメートス
24 ペリアースの子	アカストス
25 ヘルメースの子	エウリュトス
26 オイネウスの子	メレアグロス

27	リュクールゴスの子	アンカイオス
28	ポセイドーンの子	エウペーモス
29	タウマコスの子	ポイアース
30	テレオーンの子	ブーテース
31	ディオニューソスの子	パーノス
32	ディオニューソスの子	スタピュロス
33	ポセイドーンの子	エルギーノス
34	ネーレウスの子	ペリクリュメノス
35	ヘーリオスの子	アウゲイアース
36	テスティオスの子	イーピクロス
37	プリクソスの子	アルゴス
38	メーキステウスの子	エウリュアロス
39	ヒッパルモスの子	ペーネレオース
40	アレクトールの子	レーイトス
41	ナウボロスの子	イーピトス
42	アーレスの子	アスカラポス
43	アーレスの子	イアルメノス
44	コメーテースの子	アステリオス
45	エラトスの子	ポリュペーモス

※ 2) アポロドーロスによる古典的な神話では

ペリアースは、イアーソーンの帰還をあきらめて、アイソーンを殺害しようとしましたが、アイソーンは自決を願い死にました。

イアーソーンの母もペリアースを呪い縊れて死にました。

イアーソーンは帰還して金の毛皮をペリアースに手渡し、船は海の神ポセイドーンに捧げられました。しかし、イアーソーンは復讐しようと機会を待っていて、メーデイアに復讐の方法を考える様頼みました。

メーデイアは、ペリアースの王宮に赴き王の娘たちに、ペリアースを薬で若返らせてやるから、ペリアースを細々に切り裂いて煮る様言って、八つ裂きにした牡羊を煮て仔羊に変えて見せました。そこで、娘たちは信用して父を細々に切り裂いて煮ました。しかし、ペリアースの息子アカストスはイオールコスの住民ともにペリアースを葬り、イアーソーンとメーデイアをイオールコスから追放しました。

イアーソーンとメーデイアはコリントスに来て、10年間幸福に暮らしましたが、後のコリントスの王クレオーンが自分の娘グラウケーをイアーソーンの許嫁にしたので、イアーソーンはメーデイアと離婚して王の娘と結婚しました。しかし、メーデイアは、イアーソーンが誓いをかけた神々を呼んで忘恩を再三責め、新婦には毒薬を浸した衣を送り、それを着た新婦は助けに来た父と共に焼きつくされました。

メーデイアは、イアーソーンとの間に産んだ子メルメロスとペレースを殺しアテナイに逃れました。メーデイアは、アテナイでアイゲウスと結婚して息子メードスを産みました。しかし、テーセウスに対して陰謀を企て、息子と共にアテナイから追放されました。メードスは多くの野蛮人を征服して支配下の全土をメーデイアと呼び、インドに遠征の途中で亡くなりました。

メーデイアは、はコルキスに戻って、アイエーテースが兄弟のペルセースによって国土を奪われているのを見て、ペルセースを殺し王国を父に戻していました。☆05)

ということです。

※ヘレースポントス：おひつじ座の話でテッサリア王アタマースの妃
ネフェレは、夫に国を追われたので、二人の子兄のフリクソスと妹の
ヘレー（ヘルレ）を守ってくれる様大神ゼウスに願いました。
すると大神ゼウスは、伝令の神ヘルメースに命じて、金の毛の
羊を贈らせました。王妃は二人の子を羊に乗せると、羊はたちまち
空高く飛んで行きました。途中妹のヘレーはヨーロッパとアジアの
境の海峡で^{☆06)}波の音で気を失って^{☆04)}落ちてしまいました。
それ以来そこがヘレースポントス海峡^{☆04)}と言われる様になりました。

兄のフリクソスは、黒海の東岸コルキスにたどりつきました。
フリクソスはコルキスの王アイアテスに迎えられ、羊を大神ゼウスの
生けにえに捧げ、毛皮を王に贈りました。王は喜んで羊の毛皮を
森の高い木にかけて眠ることの無い火竜セゴヴィアに守らせたと
言います。^{☆06)}

- ☆01) 【アラトス「星辰譜」（ギリシア教訓叙事詩集） 伊藤照夫訳 京都大学学術出版会】
- ☆02) 【星座の秘密 前川光 恒星社厚生閣】
- ☆03) 【星 山本一清 晃文社】
- ☆04) 【ギリシア神話物語 エミール・ジュネ 有田潤 訳 白水社】
- ☆05) 【ギリシア神話 アポロドーロス著 高津春繁訳 岩波書店 P 56 ~ 66】
- ☆06) 【星座のはなし 野尻抱影 筑摩書房】
- ☆07) 【広辞苑 第四版 新村出編 岩波書店】

★夜更けの空

夜が更けると（22時～23時ごろ）

冬の星座が出そろっています。

天頂付近 ふたご座、ぎょしゃ座、やまねこ座

南の空

高 オリオン座、いっかくじゅう座

中 おおいぬ座、うさぎ座、はと座、とも座

低 ちょうこくぐ座、りゅうこつ座の一部、がく座の一部

南西の空

高 木星、おうし座

中 エリダヌス座

低 とけい座の一部、ろ座

西の空

高 ペルセウス座

中 おひつじ座、さんかく座

低 うお座、くじら座の一部

北西の空

中 アンドロメダ座、カシオペヤ座

低 ペガスス座の一部、とかげ座

北の空

高 きりん座

中 ケフェウス座、こぐま座

低 りゅう座

北東の空

中 おおぐま座、りょうけん座

低 うしかい座の一部

東の空

高 火星、かに座

中 しし座、こじし座、ろくぶんぎ座

低 かみのけ座、おとめ座の一部、コップ座の一部

南東の空

高 こいぬ座、うみへび座の頭

中 らしんばん座、

低 ポンプ座、ほ座の一部

がでています。

★惑星

水星は、1月上旬に明け方南東の低い空に見えます。

2024年12月25日に西方最大離角を過ぎたばかりで、しばらく明け方の空に見えていますが、下旬になると2月8日の外合に向かって太陽に近くなっています。

1月 1日は、 5時17分に昇ります。

1月 8日は、 5時35分に昇ります。

1月15日は、 5時54分に昇ります。

1月22日は、 6時12分に昇ります。

金星は、夕方南西の空に見えます。

1月10日が東方最大離角で離角 $47^{\circ}10'$ となり、日が暮れて星が出そろってもしばらく見えていて、星座の中にいる様子がよく見えます。

1月 1日は、 20時23分に沈みます。

1月 8日は、 20時32分に沈みます。

1月15日は、 20時39分に沈みます。

1月22日は、 20時45分に沈みます。

火星は、ふたご座にいて、夕方は西の空に、夜半は南の高い空に、明け方は西の空に見えます。

1月 1日は、 18時00分に昇り、 1時20分に南中します。

1月 8日は、 17時19分に昇り、 0時42分に南中します。

1月15日は、 16時37分に昇り、 0時03分に南中します。

1月22日は、 23時18分に南中し、 6時45分に沈みます。

木星は、おうし座にいて、宵に南の高い空に見えます。

1月 1日は、 21時43分に南中し、 4時56分に沈みます。

1月 8日は、 21時12分に南中し、 4時25分に沈みます。

1月15日は、 20時42分に南中し、 3時55分に沈みます。

1月22日は、 20時13分に南中し、 3時26分に沈みます。

土星は、みずがめ座にいて、夕方南西の空に見えます。

1月 1日は、 21時42分に沈みます。

1月 8日は、 21時17分に沈みます。

1月15日は、 20時52分に沈みます。

1月22日は、 20時28分に沈みます。

天王星は、おひつじ座にいて、夕方南の空にいます。

1月 1日は、 20時21分に南中し、 3時22分に沈みます。

1月 8日は、 19時53分に南中し、 2時54分に沈みます。

1月15日は、 19時25分に南中し、 2時26分に沈みます。

1月22日は、 18時57分に南中し、 1時58分に沈みます。

海王星は、うお座にいて、夕方南西の低い空にいます。

1月 1日は、 22時44分に沈みます。

1月 8日は、 22時17分に沈みます。

1月15日は、 21時50分に沈みます。

1月22日は、 21時23分に沈みます。

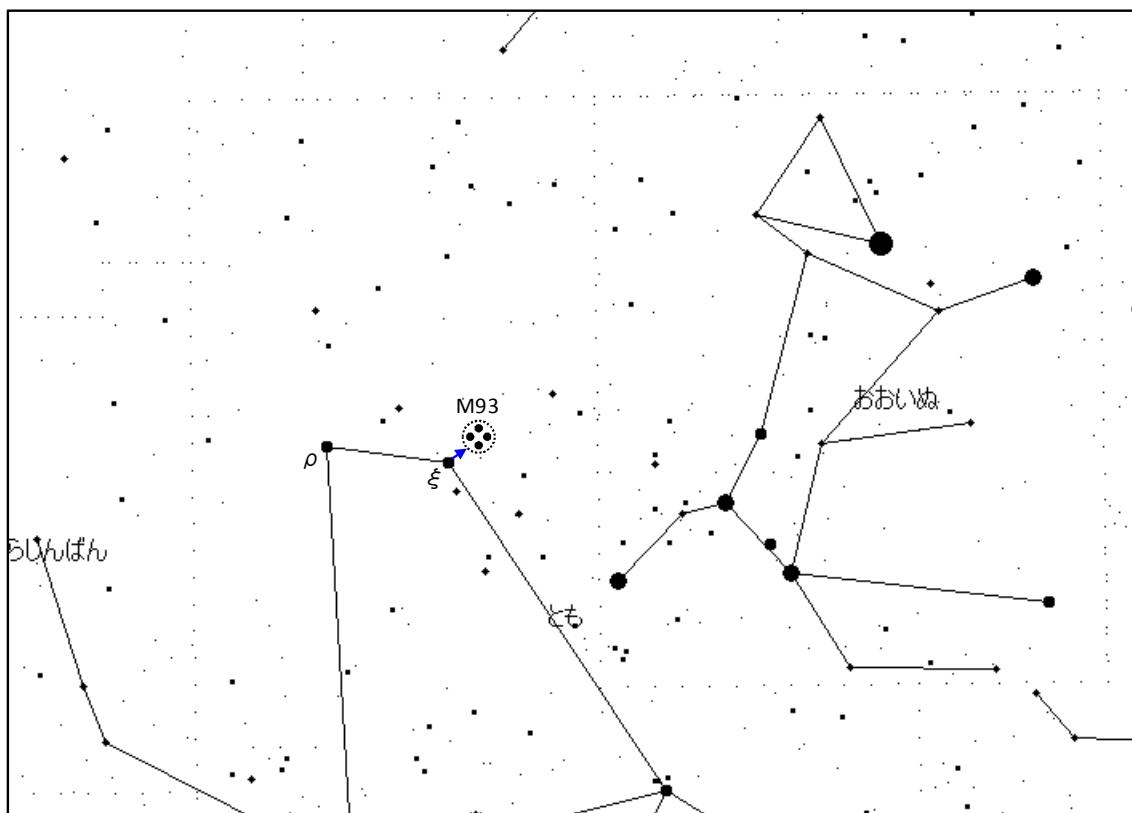
【スター紹介】

★M93 ★NGC2447

とも座にある散開星団です。

距離は3580光年、大きさは26光年、見かけの大きさは25' \star^{08} で、我々の銀河系内の星団です。

探しやすいところにありますが、淡いので見つけるのに少し時間がかかるかもしれません。おおいぬ座の腰の辺りの東側にとも座の3等星が2つρとξが東西に並んで見えますが、西側のξの北西側すぐ近くにあります。双眼鏡で見るとξは2つに分かれて見えるので目印になりますが、同じ視野で、そのすぐ北西の方に淡い光のかたまりが見えます。集中度が高いので、星雲の様に見えます。口径5cmの双眼鏡や望遠鏡なら、なんとなく厚揚げを半分に切った三角形の様な感じに見えます。口径8cm程度の望遠鏡なら星の並び方が見えてきて、三角形に見えた秘密が判ります。この辺りは、天の川の中で背景の星も美しく、NGCの散開星団が数えきれないほどありますので、双眼鏡で眺めているといつまでたっても飽きません。また、高度がやや低く、双眼鏡で見る姿勢も楽なので、防寒対策をしっかりとすると長時間の観望が楽しめます。





M 9 3 口径 1 3 c m にて撮影

☆08)【天文年鑑 2 0 2 4 年版 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社】

【まめ知識】

★流れ星を多く見るコツ★

- * 当然ですが、星がたくさん見えるところほど、流れ星もたくさん見えますので少しでも星がたくさん見えるところで見ましょう。近くの邪魔な光を遮ってくれる、木の影や建物の影などに入るだけでもずいぶん違います。これも難しい場合は、手やうちわで街灯を隠して光を遮りましょう。
- * 視界が良く空全体を広く見渡せるところで見ましょう。空のどの方向も出る確立は同じなので、空が広く見渡せるところほど多く見えます。
- * 常に空に向いていましょう。いつどこに出るか分からない物ですので、楽な姿勢で空を見続けられる様にしましょう。リクライニングできる椅子を利用したり、シートや莫産を敷いたりして寝ころぶのも良いでしょう。この場合寝てしまうことがよくあるので注意しましょう。もし寝てしまっても風邪を引かない様にシュラフや毛布にくるまるのも良いでしょう。
- * ぼんやりと広い範囲を見ている方がたくさん見えます。意気込んで見ようとして目を凝らしてしまうと見ている視野が狭くなってしまいますし、疲れて長続きしません。
- * 経験上、星座を眺めているときよく見えます。今、どの様な星座が出ているのかなあと、辺りを見渡しているのが良いようです。

【付録】

★ α Car (カノープス) 南中時刻 2 0 2 5 年 (東京)

0 1 月 0 1 日	2 3 時 1 9 分
0 1 月 0 2 日	2 3 時 1 5 分
0 1 月 0 3 日	2 3 時 1 1 分

01月04日	23時07分
01月05日	23時04分
01月06日	22時60分
01月07日	22時56分
01月08日	22時52分
01月09日	22時48分
01月10日	22時44分
01月11日	22時40分
01月12日	22時36分
01月13日	22時32分
01月14日	22時28分
01月15日	22時24分
01月16日	22時20分
01月17日	22時16分
01月18日	22時12分
01月19日	22時09分
01月20日	22時05分
01月21日	22時01分
01月22日	21時57分
01月23日	21時53分
01月24日	21時49分
01月25日	21時45分
01月26日	21時41分
01月27日	21時37分
01月28日	21時33分
01月29日	21時29分
01月30日	21時25分
01月31日	21時21分

★水星の日出30分前の高度 2024年（東京）

1月 1日	6時21分	10.4	306.7	-21
1月 2日	6時21分	10.0	306.6	-21
1月 3日	6時21分	9.5	306.5	-20
1月 4日	6時21分	9.1	306.4	-20
1月 5日	6時21分	8.6	306.2	-20
1月 6日	6時21分	8.2	306.0	-20
1月 7日	6時21分	7.7	305.8	-19
1月 8日	6時21分	7.2	305.5	-19
1月 9日	6時21分	6.8	305.3	-18
1月10日	6時21分	6.3	305.0	-18
1月11日	6時21分	5.8	304.7	-18
1月12日	6時21分	5.4	304.3	-17
1月13日	6時21分	4.9	304.0	-17
1月14日	6時20分	4.4	303.6	-16
1月15日	6時20分	3.9	303.1	-16
1月16日	6時19分	3.3	302.6	-16
1月17日	6時19分	2.8	302.1	-15
1月18日	6時19分	2.4	301.7	-14

1月19日	6時19分	1.9	301.2	-14
1月20日	6時18分	1.5	300.7	-13
1月21日	6時18分	0.9	300.1	-12
1月22日	6時17分	0.4	299.5	-12
1月23日	6時17分	0.0	298.9	-11
1月24日	6時16分	-0.5	298.2	-11
1月25日	6時16分	-1.0	297.6	-10
1月26日	6時15分	-1.5	296.9	-10
1月27日	6時15分	-1.9	296.2	-9
1月28日	6時14分	-2.5	295.5	-9
1月29日	6時13分	-3.0	294.7	-9
1月30日	6時12分	-3.5	293.9	-8
1月31日	6時12分	-3.9	293.2	-7

それではまた。

【参考文献】

- ☆01) アラトス「星辰譜」(ギリシア教訓叙事詩集)
伊藤照夫訳 京都大学学術出版会
- ☆02) 星座の秘密 前川光 恒星社厚生閣
- ☆03) 星 山本一清 晃文社
- ☆04) ギリシア神話物語 エミール・ジュネ 有田潤 訳 白水社
- ☆05) ギリシア神話 アポロドーロス著 高津春繁訳 岩波書店
P 56 ~ 66
- ☆06) 星座のはなし 野尻抱影 筑摩書房
- ☆07) 広辞苑 第四版 新村出編 岩波書店
- ☆08) 天文年鑑 2024年版 天文年鑑編集委員会 編著 誠文堂新光社